

札幌市歯科口腔保健推進条例に関連してフッ素のとらえ方を総合的に検証する

Comprehensive examination of how fluoride is viewed in relation to the Sapporo Dental and Oral Health Promotion Ordinance

○遠藤高弘

○Takahiro Endou

医療法人北海道勤労者歯科医療協会 にしく 歯科診療所

Hokkaido Workers' Dental Association Nishiku Dental Clinic

歯科領域は健康日本 21 で 8020 達成率を達成し、幼児・学童の齲蝕罹患率が非常に減少したが、ライフステージを通して口腔内の健康増進を図ることは本学会の目標の大きな柱である。今年 6 月 6 日札幌市歯科口腔保健推進条例が市議会で可決された。この中でフッ化物の取組推進について様々な意見が寄せられ検討されている。

フッ素については世界的な動向と 1994 年 WHO のテクニカルレポート、日本における推進派の行ってきたこと、消費者団体や市民が行ってきた反対運動と、それらがかみ合わないまま推移してきた歴史があり、科学的に疫学的に明らかになってきたことと、こじつけやデマに近い指摘もある。またフッ素という元素が他分野で多々利用されている実態があり、アメリカが近年有機フッ素化合物の規制を 3000 倍厳しくしたことで札幌でも水道の PFOS などの成分チェックが 2021 年より始まっている。このような背景から市民もフッ素という言葉に敏感になっている実態があると考えられる。日本弁護士連合会が 2011 年に見解をまとめており、問題点と確認事項が多岐にわたるため、全部で 89 ページの答申となっている。最近では「日本口腔衛生学会の考え方」が一番わかりやすく現状分析されていると思われ、フッ素入り歯磨剤の普及が非常に進んでいることがわかり、またインプラント体のフッ素による腐食について反論も出ている。市の条例について最終的にはフッ素洗口の言葉は入らずフッ化物の取組推進となった。現実的には札幌でも 2024 年度からフッ素洗口の実施が計画されており、父母が安全性に疑問を持たないよう、歯科医療従事者は共通認識を持ってしっかりと臨むことが必要と思われる。なお、今回の発表の内容に関して、できるだけ総合的に客観的に把握することを心掛け賛否の表現や批判的な評価は避けたつもりだが、誤解を招くような表現があればご指摘願いたい。